

令和6年度 アンケート調査（せきのまちづくり通信簿）調査結果

【結果報告書・概要版】

●調査の目的

「令和6年度アンケート調査（せきのまちづくり通信簿）」は、関市民のまちづくりへの意識等を把握し、各事業の見直しや改善の参考にすることを目的として実施しました。

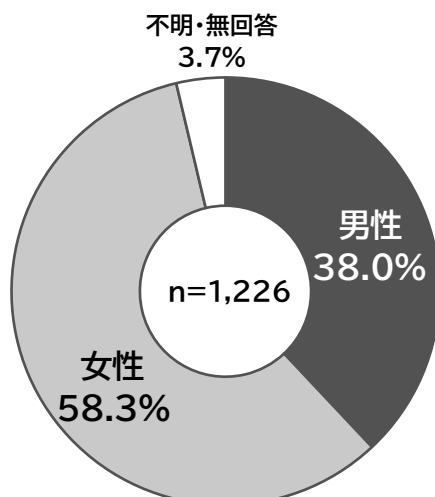
●調査の概要

- ① 調査対象者 令和6年11月現在、関市に居住している満16歳以上の市民3,000人
- ② 抽出法 住民基本台帳から対象者を無作為に抽出
- ③ 調査期間 令和6年11月18日～令和6年12月6日
- ④ 調査方法 郵送法（郵送配布 - 郵送回収またはインターネット回答）
- ⑤ 回収結果 1,226票（回収率：40.9%）
- ⑥ 報告書の見方
 - ・グラフ中の「n」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
 - ・グラフ中の「％」は、小数第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。

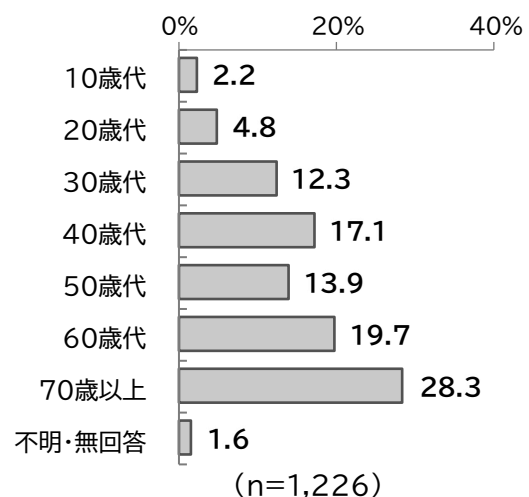
1 回答者の属性

回答者について、性別は女性がやや多く、年齢は「70歳以上」、次いで「60歳代」が多くなっています。

●回答者の性別



●回答者の年齢

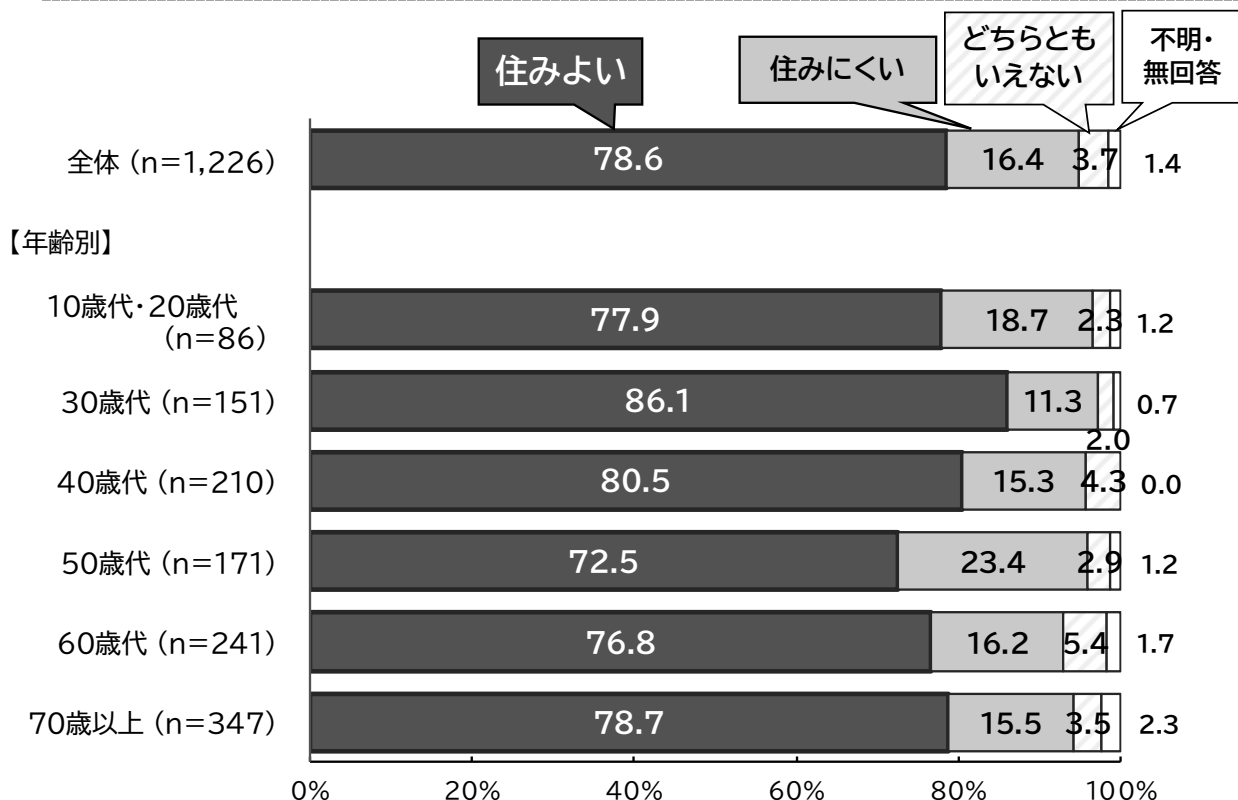


2

関市の住みよさについて

●「あなたは関市が住みよいまちだと感じますか」

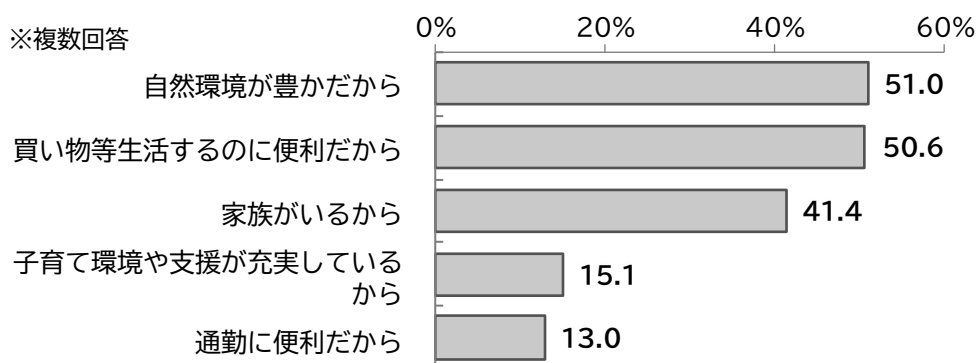
関市が住みよいまちと感じるかについて、全体の78.6%が関市を『住みよい』と感じています。年齢別にみると、30歳代、40歳代で『住みよい』が8割以上と高くなっています。一方、50歳代で『住みにくい』と回答した割合が他の年代に比べてやや高くなっています。



※『住みよい』は、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合算、
『住みにくい』は、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」の合算。

●「関市が住みよいと思う理由は何ですか」＜上位5位＞（※『住みよい』を選んだ方）

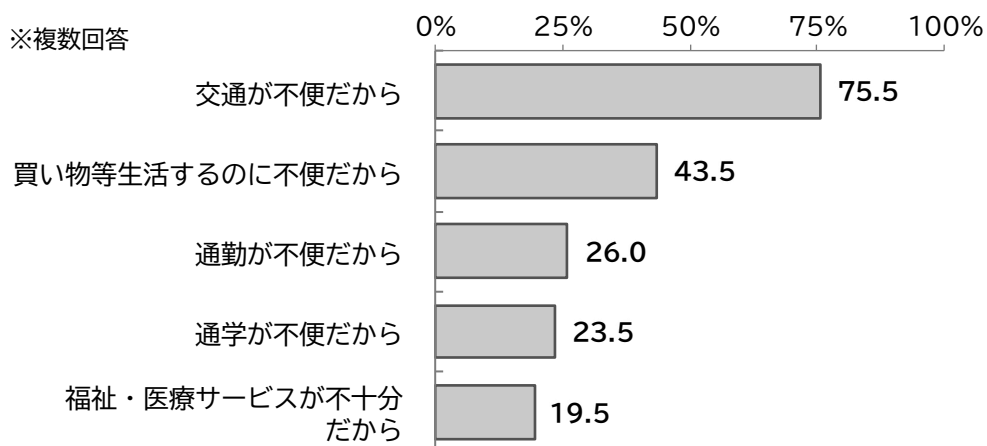
関市が『住みよい』と回答した方にその理由についてたずねたところ、51.0%の人が「自然環境が豊かだから」と回答しています。次いで、「買い物等生活するのに便利だから」、「家族がいるから」の回答が続いています。



(n=964)※

●「関市が住みにくいと思う理由は何ですか」＜上位5位＞（※『住みにくい』を選んだ方）

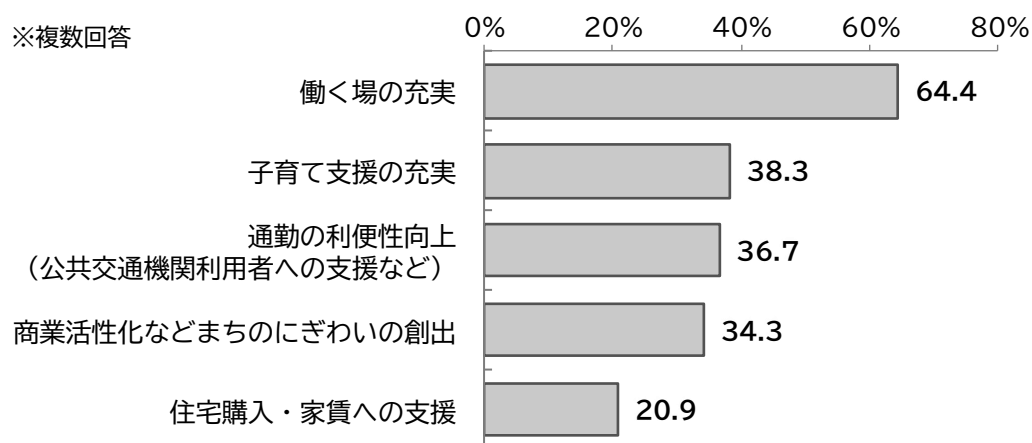
関市が『住みにくい』と回答した方にその理由についてたずねたところ、75.5%の人が「交通が不便だから」と回答しています。次いで、「買い物等生活するのに不便だから」、「通勤が不便だから」、「通学が不便だから」の回答が続いています。



(n=200)※

●「若年層が関市に住み続けられる、または関市に移り住んでもらうために重要なことは何だと思いますか」＜上位5位＞

若年層が関市に住み続けられる、または関市に移り住んでもらうために重要だと思うことについて、「働く場の充実」が64.4%と最も高く、次いで「子育て支援の充実」が38.3%、「通勤の利便性向上」が36.7%となっています。



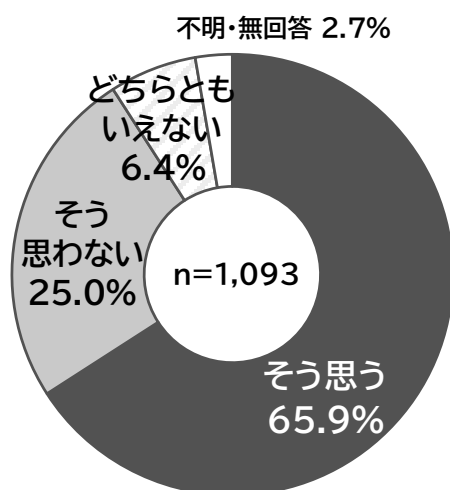
(n=1,226)

3

暮らしにエール商品券事業について

- 「あなたは、商品券（せきちけ、せき pay）を使って普段よりたくさんの商品等を購入しましたか」（※商品券を使用した方）

商品券を使って普段よりたくさんの商品等を購入したかについて、全体の 65.9%が『そう思う』と回答しています。



- 「暮らしにエール商品券をどのような目的で使いましたか（使用しますか）」

暮らしにエール商品券の使用目的について、「① 普段の買い物等を商品券で支払った金額」、「② 商品券がきっかけとなった支払い金額」、「③ 商品券での支払い合計額（①+②）」、「④ 商品券での②の支払いに追加で支払った現金等の額」の4項目の金額についてたずね、以下のとおり整理しました。今回のアンケート結果から求められる、商品券使用額に対する消費喚起効果の割合は 35.9%となりました。

項 目	金額（合計）	回答数
③ 商品券での支払い合計額（①+②）	24,376 千円	n=1,032
① 普段の買い物等を商品券で支払った金額	18,633 千円	n=973
② 商品券がきっかけとなった支払い金額 （商品券での支払い金額）※普段の買い物除く	5,743 千円	n=409
④ 商品券での②の支払いに追加で支払った現金等の額 （商品券以外での支払い金額）	3,018 千円	n=288
⑤ 商品券がきっかけとなった支払い合計金額 （商品券+現金等）（②+④）	8,761 千円	-
商品券使用額に対する消費喚起効果の割合（⑤÷③）	35.9%	-

※千円未満切り捨て

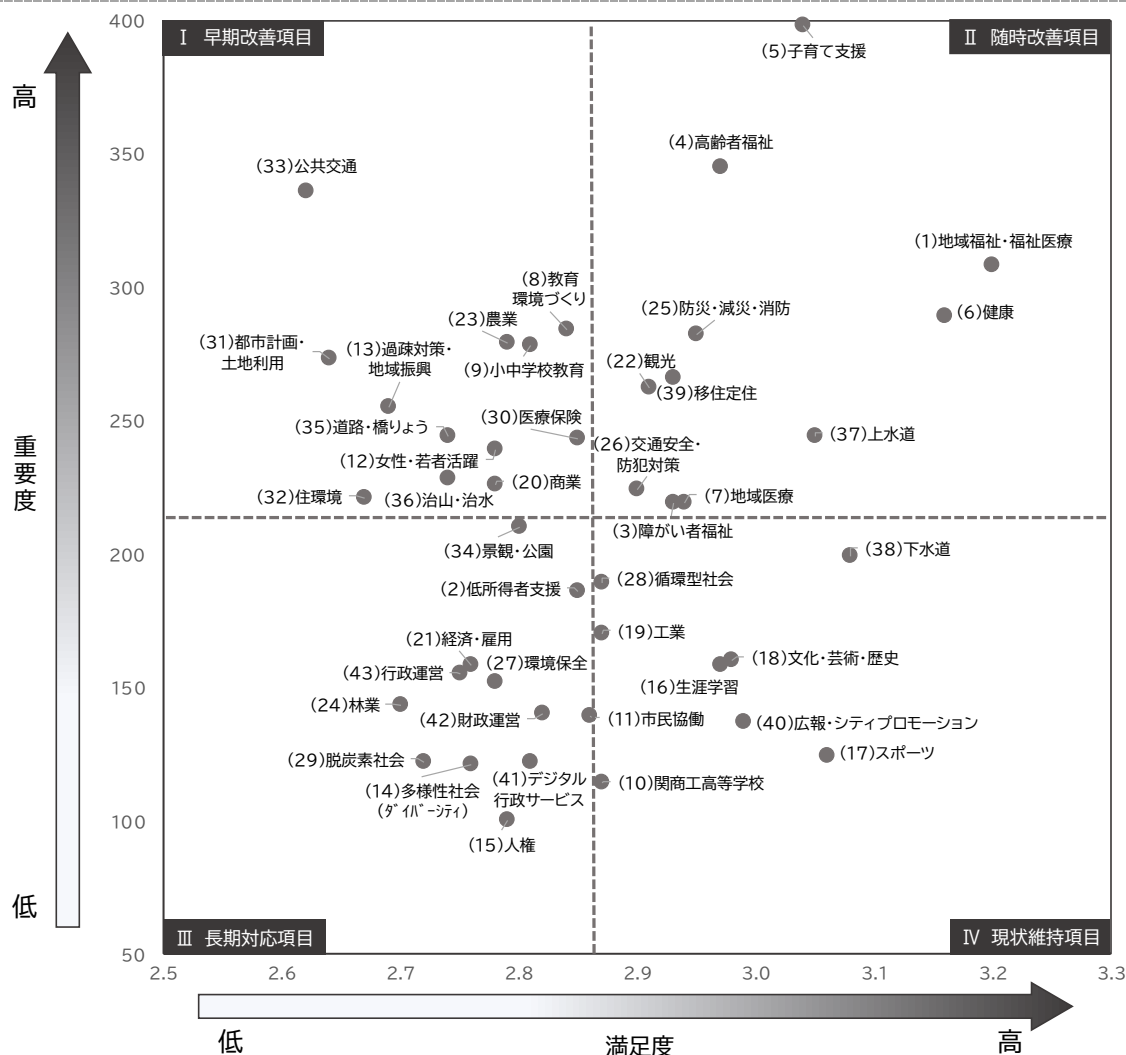
4

市の主な施策の「満足度・重要度」について

●「施策の満足度・重要度のポートフォリオ分析」

施策の満足度、重要度を得点化し、算出された得点をもとに平均値を境界として、4つの領域に区分した満足度・重要度の分布図を作成、今後の施策の方向性について分析を行いました。

「＜タイプⅠ＞早期改善項目」に分類される施策には、「(33)公共交通」「(31)都市計画・土地利用」「(13)過疎対策・地域振興」などがあがっています。



【満足度・重要度の得点化】

満足度…「[とても満足](5点) × 回答数 + 「まあ満足」(4点) × 回答数 + 「普通・どちらともいえない」(3点) × 回答数 + 「やや不満」(2点) × 回答数 + 「不満」(1点) × 回答数] / 総回答数

重要度…「積極的に進めるべきだと思う施策」(1点) × 回答数

【重要度と満足度の関係】

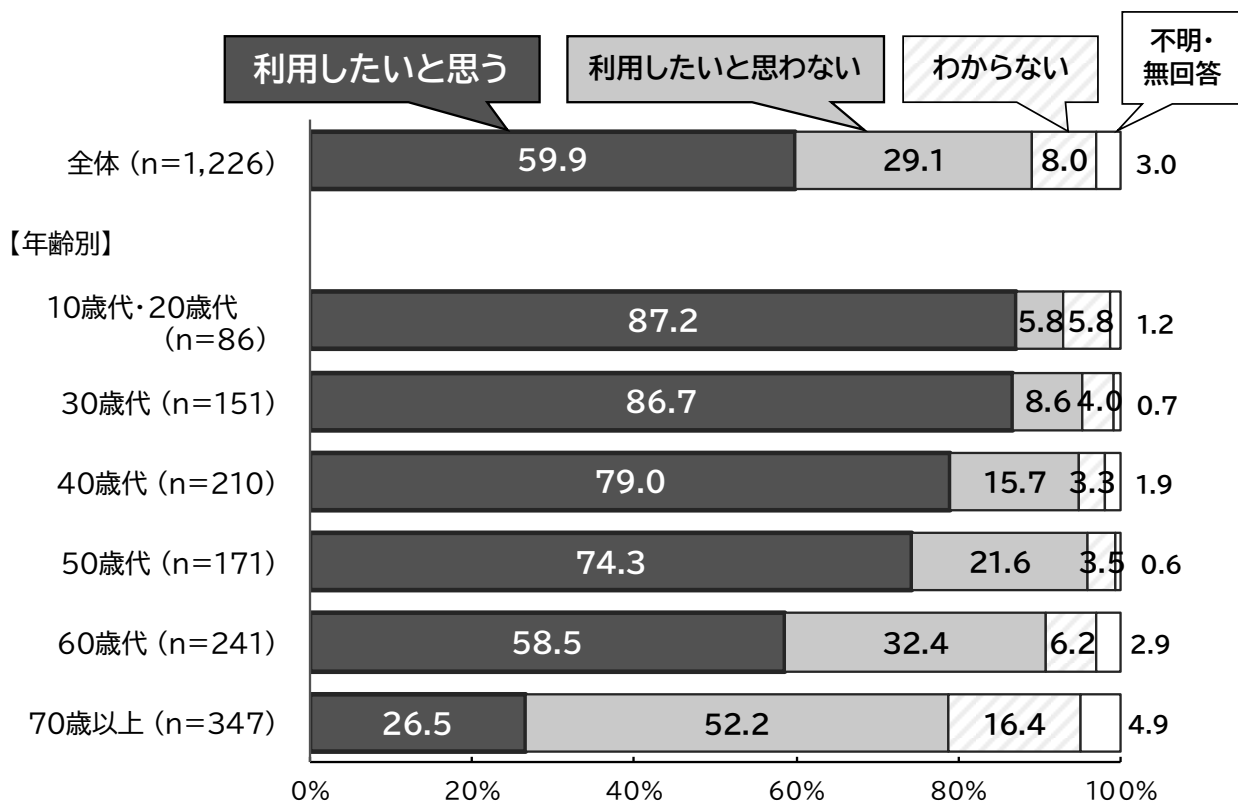
＜タイプⅠ＞早期改善項目 (重要度は高いが、満足度は低い) ⇒現在の施策や事務事業を優先して改革・改善すべき施策の分野	＜タイプⅡ＞随時改善項目 (重要度が高く、満足度も高い) ⇒今後も継続して事業に取り組めるよう、事業費が過大となっていないか点検するとともに、さらなる事業の効率化を検討する施策の分野
＜タイプⅢ＞長期対応項目 (重要度が低く、満足度も低い) ⇒施策の重要性に対する認知を高めるとともに、取組の方向の改善を検討する施策の分野	＜タイプⅣ＞現状維持項目 (重要度は低く、満足が高い) ⇒今後も着実に事業の推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高める施策の分野

5

まちづくりへの意識と取組について

- 「あなたは、市役所（地域事務所含む）の窓口に行かなくても、自分のパソコンやスマートフォンを使ってオンラインで申請手続きなどが完結するサービスができれば、利用してみたいと思いますか」

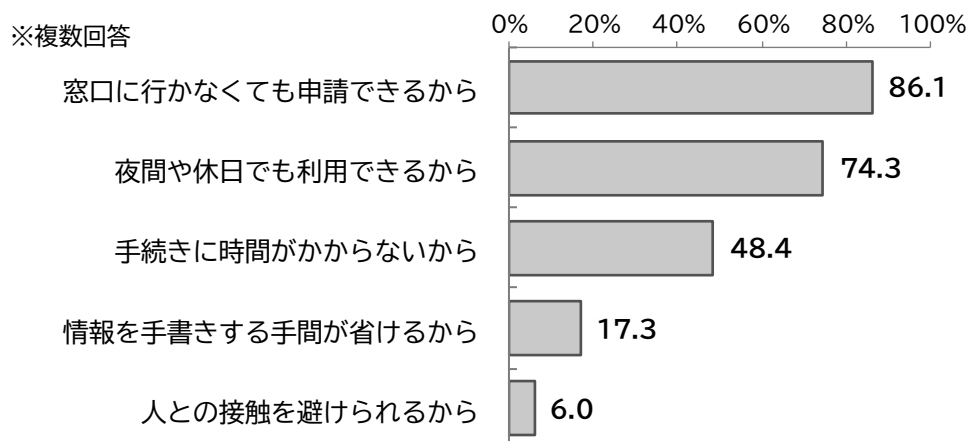
オンラインサービスについて、全体では『利用したいと思う』が59.9%、『利用したいと思わない』が29.1%となっています。年齢別にみると、年代が低くなるにしたがい、『利用したいと思う』が高くなる傾向となっており、30歳代以下で8割を超えています。一方、70歳以上では『利用したいと思わない』が『利用したいと思う』を上回っています。



※『利用したいと思う』は、「とても利用したいと思う」と「やや利用したいと思う」の合算、
『利用したいと思わない』は、「あまり利用したいと思わない」と「全く利用したいと思わない」の合算。

●「オンラインサービスを利用したいと思う理由は何ですか」＜上位5位＞（※『利用したいと思う』を選んだ方）

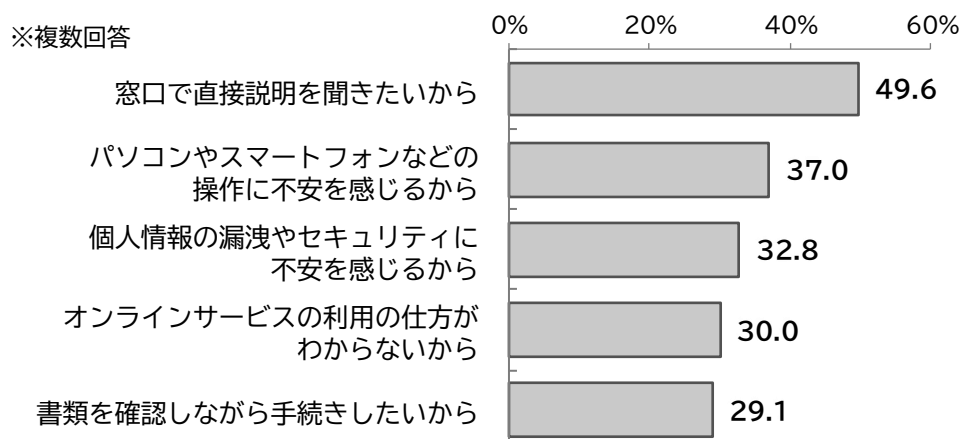
オンラインサービスを利用したいと思う理由について、「窓口に行かなくても申請できるから」が86.1%と最も高く、次いで「夜間や休日でも利用できるから」が74.3%となっています。



(n=734)※

●「オンラインサービスを利用したいと思わない理由は何ですか」＜上位5位＞（※『利用したいと思わない』を選んだ方）

オンラインサービスを利用したいと思わない理由について、「窓口で直接説明を聞きたいから」が49.6%と最も高く、次いで「パソコンやスマートフォンなどの操作に不安を感じるから」が37.0%となっています。



(n=357)※

令和6年度アンケート調査（せきのまちづくり通信簿）調査結果【結果報告書・概要版】
 発行年月：令和7年3月
 発行：関市
 編集：市長公室 企画広報課 岐阜県関市若草通3丁目1番地
 TEL 0575-22-3131（代表） FAX 0575-23-7744